1　改善が期待できる認知症はどれか。

a　Pick病

b　Alzheimer病

c　甲状腺機能亢進症

d　特発性正常圧水頭症

e　Creutzfeldt-Jakob病

2　溶血が検査値に影響を与えるのはどれか。

a　LD

b　葉　酸

c　中性脂肪

d　カルシウム

e　ナトリウム

3　高齢者の転倒事故予防のための処置として**適切でない**のはどれか。

a　筋力訓練の実施

b　歩行補助具の利用

c　離床センサーによる監視

d　ベッドを低い位置に固定

e　睡眠導入薬服用による熟睡

4　大腸癌のリスク因子はどれか。

a　飲　酒

b　喫　煙

c　高脂肪食

d　高繊維食

e　身体活動の増加

5　何が倫理的かをきめるにあたって、**合理的でない**アプローチはどれか。

a　医師会の倫理綱領を参考にする。

b　選択した解決案を当事者と話し合う。

c　習慣に従って、先輩医師の模倣をする。

d　自分の決定を評価した上で、応用する。

e　解決案を、支える原理、原則をもとに検討する。

6　症候とそのとらえ方の組合せで**誤っている**のはどれか。

a　ショック――――――――――――――――――――脈拍測定

b　浮　腫――――――――――――――――――――舌粘膜の観察

c　黄　疸――――――――――――――――――――眼球結膜の観察

d　貧　血――――――――――――――――――――口腔粘膜の観察

e　脱　水――――――――――――――――――――皮膚緊張度の観察

7　胸部エックス線写真で左第２弓の突出がみられやすいのはどれか。

a　肺高血圧症

b　僧帽弁狭窄症

c　肥大型心筋症

d　大動脈弁狭窄症

e　大動脈弁閉鎖不全症

8　腹部臓器の診察に適した体位の組合せはどれか。

a　肝――――――――――――――――――――胸膝位

b　腎――――――――――――――――――――仰臥位

c　膵　臓――――――――――――――――――――半坐位

d　胆　嚢――――――――――――――――――――腹臥位

e　直　腸――――――――――――――――――――側臥位

9　14歳の女子。てんかんの診断で外来に通院している。過去４年間の内服期間は、けいれん発作を抑制していたが、最近６か月間は、通院間隔が不定期になっている。患者は知的障害を認めず、治療の必要性を理解できている。治療意欲を向上させるのに最も有効なのはどれか。

a　頻回の受診を促す。

b　診療時間を長くする。

c　治療目標を明確にする。

d　言葉遣いを丁寧にする。

e　最新の医療情報を提供する。

10　健康日本21で重視されているのはどれか。

a　二次予防

b　薬物乱用防止

c　ハイリスクアプローチ

d　全国一律のアプローチ

e　健康課題ごとの目標設定

11　医療法に規定されているのはどれか。

a　守秘義務

b　診療録の保存

c　処方せんの交付

d　異状死体の届出

e　医療計画の策定

12　髄液所見と疾患の組合せで**誤っている**のはどれか。

a　Cl低下 ――――――――――――――――――結核性髄膜炎

b　糖増加――――――――――――――――――――真菌性髄膜炎

c　髄液圧上昇――――――――――――――――――頭蓋内血腫

d　キサントクロミー――――――――――――――くも膜下出血

e　オリゴクローナルIgGバンド――――――――多発性硬化症

13　徒手筋力テスト（MMT）で重力に抗して完全に運動できる最小の段階はどれか。

a　5 <Normal>

b　4 <Good>

c　3 <Fair>

d　2 <Poor>

e　1 <Trace>

14　ショックと原因の組合せで**誤っている**のはどれか。

a　循環血液量減少性ショック――――――――心タンポナーデ

b　閉塞性ショック――――――――――――――緊張性気胸

c　心原性ショック――――――――――――――急性心筋梗塞

d　血管分布異常性ショック――――――――――敗血症

e　アナフィラキシーショック――――――――薬物アレルギー

15　Eisenmenger症候群に陥っても、口唇にチアノーゼが**出にくい**のはどれか。

a　心房中隔欠損症

b　心室中隔欠損症

c　心内膜床欠損症

d　動脈管開存症

e　部分肺静脈還流異常症

16　認知症症状が主な症状となるのはどれか。

a　Parkinson病

b　進行性核上性麻痺

c　線条体黒質変性症

d　筋萎縮性側索硬化症

e　オリーブ橋小脳萎縮症

17　眼底写真を示す。右眼も同様の所見を認める。
この疾患で認められる可能性が高いのはどれか。

a　夜　盲

b　高眼圧

c　低眼圧

d　視野異常

e　色覚異常

眼底写真

18　死亡診断書について正しいのはどれか。

a　保健所へ提出する。

b　死因統計の資料となる。

c　死因に老衰は用いない。

d　歯科医師は発行できない。

e　発行医師本人の署名と押印が必要である。

19　常染色体劣性遺伝を示す疾患はどれか。

a　Wilson病

b　結節性硬化症

c　Marfan症候群

d　Huntington舞踏病

e　筋緊張性ジストロフィー

20　診療ガイドラインの説明で正しいのはどれか。

a　厚生労働省が作製する。

b　未成年患者は対象外である。

c　エビデンスを系統的に検索して作成する。

d　誰にでも同じ診療を提供することが目的である。

e　外国での治療成績は推奨の根拠として採用されない。

21　59歳の男性。健診で血圧と脂質異常症を指摘され来院した。身長167 cm、体重76 kg。脈拍72 /分、整。腹囲88 cm。血圧142/86 mmHg。日頃から1時間程度の散歩をしている。揚げ物が好きで外食が多く、濃いめの味付けが好みである。野菜や海草類はあまり食べない。以前に比べ喫煙量は減ったが、1日20本の喫煙が続いている。毎晩ビール500 m*l*と日本酒1合を飲む習慣がある。

本症例に対する生活指導で、必要性が**低い**のはどれか。

a　減　塩

b　禁　煙

c　運　動

d　飲　酒

e　摂取エネルギー

22　71歳の男性。仕事は6年前に定年となり、現在は妻と2人暮らし。15年前より糖尿病を患い、糖尿病性腎症のため、5年前から血液透析を受けている。透析により全身状態は維持しているが、最近「もう透析を受けたくない」と言う様になった。

この患者への対応で、正しいのはどれか。

a　頑張るよう励ます。

b　治療を一旦中断する。

c　家族を呼び説得してもらう。

d　患者の気持ちや考えを詳しく聞く。

e　糖尿病と血液透析についての説明をする。

23　72歳の男性。眼球結膜の黄染を指摘され来院した。血液所見：赤血球356万、Hb 14 g/d*l*。血液生化学所見：TP 7.5 g/d*l*、Alb 3.8 g/d*l*、総ビリルビン10 mg/d*l*、直接ビリルビン8 mg/d*l*、AST 68 IU/*l*、ALT 98 IU/*l*、ALP 780 IU/*l*（基準115-359）、γ-GTP 450 IU/*l*（基準9-28）。

この患者にみられるのはどれか。

a　浮　腫

b　手掌紅斑

c　皮膚掻痒感

d　チアノーゼ

e　クモ状血管腫

24　72歳の男性。主訴は頭痛、発熱、意識障害。糖尿病で近医に通院していたがコントロールは不良であった。既往に副鼻腔炎を認める。

1か月前から右眼窩部痛が出現し、次第に右眼がかすむようになった。近医眼科を受診し、右視力低下を認めたが、眼科的疾患は否定された。2週前から、37℃台の発熱と意識障害が徐々に出現したため、受診した。神経学的には、傾眠、見当識障害、右眼視力低下、右対光反射減弱、右眼の全方向性眼球運動障害、右角膜反射減弱、項部硬直、Kernig徴候を認めた。

腰椎穿刺検査所見として、最も当てはまるのはどれか。

髄液所見を、性状、髄液圧（mmH_2O）、細胞数（/mm^3）、蛋白（mg/d*l*）、糖（mg/d*l*）の順で示す。但し、血糖は100mg/d*l*。

a　水様、70、5（リンパ球優位）、100、75

b　水様、150、100（リンパ球優位）、75、75

c　混濁、250、1000（好中球優位）、250、75

d　混濁、200、200（リンパ球優位）、150、35

e　混濁、150、150（リンパ球優位、異型細胞）、100、86

25　52歳の女性。最近2〜3月で、4 kgの体重減少、手指振戦を認めたため受診した。身長154 cm、体重49 kg。血圧122/76 mmHg。空腹時血糖102 mg/d*l*、HbA1c 5.3 %、尿素窒素12 mg/d*l*、クレアチニン0.74 mg/d*l*、Na 142 mEq/*l*、K 4.2 mEq/*l*、Cl 102 mEq/*l*、Ca 9.1 mg/d*l*。本症例で考えられるのはどれか。

a　原発性アルドステロン症

b　副甲状腺機能低下症

c　甲状腺機能亢進症

d　Cushing症候群

e　糖尿病

26　68歳の女性。労作時の動悸、息切れを主訴に来院した。20年前に血尿を指摘され、腎生検でIgA腎症と診断された。近医にて加療をされていたが、1か月前から階段を上がる時の動悸と息切れを自覚するようになった。来院時、身長158 cm、体重52 kg。脈拍96/分、整。血圧162/86 mmHg。眼瞼結膜に貧血あり。両下肺野に湿性ラ音聴取。両下腿に浮腫を認める。尿所見:蛋白3＋、糖(－)、潜血2＋。沈渣:赤血球10～20/1視野。血液所見:赤血球240万、Hb 7.6 g/dl、Ht 23 %、白血球6,500、血小板28万。血液生化学所見：総蛋白6.4 g/dl、アルブミン3.7 g/dl、尿素窒素68 mg/dl、クレアチニン6.4 mg/dl、尿酸7.4 mg/dl、Na 138 mEq/l、K 6.4 mEq/l、Cl 108 mEq/l。

この患者の治療に**用いない**のはどれか。

a　ループ利尿薬
b　エリスロポエチン
c　アルドステロン拮抗薬
d　カルシウム拮抗薬
e　活性型ビタミンD製剤

27　26歳の女性の患者を研修医が上級医師の指導の下で、診察室で病歴聴取を行うことになった。その際の会話を示す。

研修医　「お待たせしました。Aさんですね。私が担当のBです。よろしくお願いします。今日はどうされましたか。」
患　者　「最近、貧血がつらくて受診しました。」
研修医　「月経の量がとても多いのではありませんか。」
患　者　「他の人と比べたことがないのでよく分かりませんが、多いかもしれません。」
研修医　「多いのですね。」
患　者　「…そうですか。」
研修医　「下血はありませんか。」
患　者　「下血…。たぶん無いと思います。」
研修医　「そうですか。詳しく検査をしてみないと分かりませんが、たぶん月経過多症だと思います。」
患　者　「あの、先生。急に立ち上がると、目がくらんだり、めまいがすることが時々あります。この前は倒れてしまって、助けてくれた友達が、冷たくなった手足と真っ白い顔色にビックリしてしまいました。それで、一度病院へ行った方がいいとすすめてくれたのですが…。こういうのは、月経過多症の症状なのですか。」

この研修医の評価で正しいのはどれか。

a　患者の訴えに耳を傾けている。
b　患者への言葉遣いは適切である。
c　患者にわかりやすく説明している。
d　患者の訴えに共感した対応ができている。
e　患者の訴えの鑑別診断を論理的に行っている。

28　74歳の男性。突然の腹痛および腰背部痛を生じ、軽快しないため搬入された。高血圧症の既往があり降圧薬を服用している。意識レベルはJCS Ⅰ-1。呼吸数24/分。脈拍116/分、整。血圧76/58 mmHg。腹部は膨隆し、拍動性腫瘤を触知する。左腰部から側腹部にかけて皮下出血を認める。直ちに乳酸リンゲル液の輸液を開始し、診断のための検査を行った。

その後の経過として病態の改善を示唆する所見はどれか。

a　脈拍44/分
b　呼吸数32/分
c　尿量120 ml/時
d　血圧74/60 mmHg
e　意識レベルJCS Ⅱ-10

29　20歳の女性。猫を飼っている。右頸部のしこりを主訴に来院した。右頸部前面に4 cm大の腫瘤を認め、病理検査で悪性リンパ腫と診断された。

結果説明として適切なのはどれか。

a　まず家族に伝える。
b　患者が泣きだしたときは即座に説明を中止する。
c　不安を招かないよう猫のひっかき傷の後遺症と伝える。
d　患者の感情を刺激しないように淡々と事実のみを伝える。
e　まず患者の認識や説明に対する希望を確認してから説明する。

30　34歳の女性。自覚症状は無いが、リウマチ熱の既往があるため、リウマチ性弁膜症を心配して受診した。

ベル型でも聴診すべき部位はどこか。

a　第2肋間胸骨右縁
b　第2肋間胸骨左縁
c　第3肋間胸骨左縁
d　第4肋間胸骨左縁
e　第5肋間左鎖骨中線

31　48歳の男性。日中の眠気を主訴に来院した。運送業のため日中は車の運転をし、週に1、2日は夜10時まで勤務する。毎日焼酎を一合飲む。元来健康で人一倍体力に自信があったが、最近身体がだるく、昼間の運転中によく居眠りしそうになる。妻から睡眠時いびきが大きく、時々息をしない事があると言われている。身長167 cm、体重105 kg。脈拍82/分、整。血圧156/98 mmHg。血液所見：赤血球数650万、Hb 18.8 g/dl、Ht 58 %。安静時心電図は正常。

この患者への対応で**適切でない**のはどれか。

a　禁　酒

b　体重の減量指導

c　長時間運転の制限

d　睡眠導入薬の処方

e　ポリソムノグラフィ検査

32　10歳の男児。誤ってフライドチキンを骨ごと飲み込んだ直後から飲み込めなくなり救急外来を受診した。

先ず行う検査として正しいのはどれか。

a　核医学検査

b　呼吸機能検査

c　頸部超音波検査

d　食道透視造影検査

e　単純エックス線検査

次の文を読み、33〜34の問いに答えよ。

55歳の女性。夜間、突然の呼吸困難のため搬入された。3年前に高血圧の診断を受けているが放置していた。救急車搬送中よりマスクで酸素（5 l/分）を投与されていた。搬入時に起座呼吸を認め、拡張早期奔馬調律を聴取、喘鳴が著明で泡沫状でピンク色の喀痰排出を認めた。体重の増加は軽度。呼吸数28 /分。脈拍124/分、整。血圧180/96 mmHg。動脈血ガス分析：pH 7.32 、PaO_2 60 Torr、$PaCO_2$ 44 Torr、SaO_2 90 %。胸部エックス線写真は両側肺門部を中心に蝶形陰影を認めた。

33　まず投与すべき薬剤はどれか。

a　モルヒネ

b　フロセミド

c　プレドニゾロン

d　ニトログリセリン

e　プロプラノロール

34　呼吸管理として正しいのはどれか。

a　このままで良い。

b　気管内挿管を行う。

c　酸素投与量を増やす。

d　非侵襲的陽圧呼吸を行う。

e　リザーバー付き酸素マスクに変える。

次の文を読み、35～36の問いに答えよ。

現病歴：18歳の男子。10日前から咳嗽、咽頭炎が継続し抗菌薬を服用している。数日前から四肢の紫斑が出現し、今朝から腹痛を生じるようになり来院した。

既往歴：特記すべきこと無し。

現症：身長176 cm、体重58 kg。体温37.5 ℃。呼吸数20/分。脈拍66/分。血圧126/64。

胸腹部聴診上異常なし、腹部に軽度の圧痛あり。

検査所見：血液所見：白血球8,700、赤血420万、Hb 12.8 g/dl、血小板23万。血清生化学所見：総蛋白6.8 g/dl、AST 28 IU/l、ALT 32 IU/l、ALP 202 IU/l（基準260以下）、γ-GT 29 IU/l（基準8~50）、LD 274 IU/l（基準176～353）、BUN 8 mg/dl、Cr 0.7 mg/dl、NA 134 mEq/l、K 4.6 mEq/l、Cl 98 mEq/l、CRP 0.8 mg/dl（基準0.3以下）。

35 本疾患で認められる所見はどれか。

a 黄　疸
b 動　悸
c 浮　腫
d 眩　暈
e 多発性関節炎

36 病態を反映する検査所見はどれか。

a PT延長
b APTT延長
c D-dimer増加
d 血小板凝集能低下
e 毛細血管抵抗試験陽性

次の文を読み、37～38の問いに答えよ。

33歳の男性。2日前から出現した、充血と大量の眼脂を主訴に来院した。1週前に同居の母親が同じ症状を示したという。

37 まず行うべき検査はどれか。

a 採　血
b 眼脂培養
c 頭部ＣＴ
d 胸部エックス線
e アデノウイルス抗体検査

38 院内感染予防に有効なのはどれか。

a 患者の抗菌薬点眼
b 患者の抗菌薬内服
c 患者の抗ウイルス薬内服
d 患者が接触した物の洗浄
e 患者および医療関係者の流水での手洗い